



そば薫る「つみっこ汁」

2/6 穂高あめ市で振る舞い

穂高駅前通りで開かれた穂高あめ市で2月6日、伝統食「つみっこ汁」が振る舞われました。つみっこ汁は、米を節約しなければならなかった時代、「ツミッコ」、「ツミイレ」、「ハヤニ」となどと呼ばれ郷土に親しまれた汁物。今回振る舞った汁には、湯でこね手でちぎったそば粉を用い、ダイコンやゴボウなどと一緒に煮ています。商工会女性部穂高支部長の下里久代さん(穂高)は「作り方は簡単。そば打ちができる人は少ないと思うので、家庭で気軽にそばを楽しむ一品としてぜひ試してほしい」と話してくれました。



団員確保に 地域の力を

1/9 安曇野市消防団出初め式

安曇野市消防団(小出博一郎団長)の出初め式が1月9日、穂高会館で開かれました。式典には団員や関係者約600人が出席。団員表彰などを終えた後、穂高の市街地約1.3キロを分列行進しました。

小出団長は式辞で「団員の確保は、団や行政ばかりでなく、地域社会全体がともに考え解決していくことが必要」と述べ、団員確保に地域の協力を求めました。



「安曇野は一つ」 拾ヶ堰の物語

2011年春公開予定「RYOと彩の安曇野水物語」

安曇野を潤す「拾ヶ堰」を題材にしたハイビジョンシネマ「RYOと彩の安曇野水物語」(河崎義祐監督)の製作が、今春公開に向けて進められています。

拾ヶ堰は、水争いの絶えなかった200年ほど前の安曇野地域の10の村が心を1つにして造りあげた壮大な用水路です。この作品では、拾ヶ堰開削の偉業をたどりながら、主人公となる中学生のRYOと高校生の彩の成長を描き、「安曇野は一つ」という願いを映し出しています。

製作を進めているのは、有志でつくる実行委員会(世話人代表・飯田正子)。安曇野に拾ヶ堰ができた「奇跡」を後世に伝えるため、市民の皆さんの協力を募っています。詳しくは、同実行委員会(TEL83・8898 FAX83・8898)まで。

市内83区を 地図で紹介

区長会が「あづみのシティマップ」を配布

安曇野市区長会(竹内秀太郎会長)はこのたび、市内83区、公共施設や医療施設一覧など暮らしに役立つ情報をまとめた冊子「あづみのシティマップ」を配布しました。

この冊子は、株式会社ゼンリン松本支店(松本市)が、市内約110社などから協賛金を集めて発行。市区長会では区の紹介ページなどの編集に協力し、市内各戸へ配布したものです。また、区への未加入世帯や転入者にも配布し、区への加入を勧める予定です。

竹内会長は、「市の一体感を醸成するには、他の地域の場所と名前に関心を持つことが大切。多くの人にこの冊子を手にとって活用してほしい」と呼びかけています。「あづみのシティマップ」は、カラー刷のA4判74ページ。市役所各総合支所にも置いてあります。

写真は左から小林章男会計(潮区)、勝野正道会長代理(等々力町区)、竹内秀太郎会長(飯田区)、松岡光正事務長(下長尾区)



全国3位、4位の快挙

全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」

昨年10月に開かれた第10回障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」。県代表として出場した池上猛さん(穂高北穂高)と曾山邦子さん(三郷明盛)が好成績を収めました。

出場したのはフライングディスク(円盤)の飛距離を競う種目で、池上さんが3位、曾山さんが4位に入賞。池上さんは、「銅メダルが取れて良かった。今年(の開催地)は山口県。金メダル取らなくちゃ」と、本年の大会に向けての意欲を話してくれました。



懐かしの牛乳瓶で乾杯!

1/9 平成23年安曇野市成人式

安曇野市成人式が1月9日、安曇野スイス村サンモリッツ(豊科南穂高)で開かれました。本年の新成人は1,028人(男性482人、女性546人)。出席者743人が人生の大きな節目をともに祝いました。

新成人代表の三郷温出身・中村亮太さんは、「感謝の気持ちを忘れず、優しく、たくましく、自分らしく生きていきたい」と式辞を述べ、決意を新たにしました。

また式終了後には、成人式の恒例メニューとなる「給食」が登場。新成人は懐かしの献立を囲みながら牛乳瓶で乾杯し、それぞれの近況などを語り合っていました。